

作手地区及び鳳来南部地区路線の進捗状況について

■作手地区路線

- 7月17日 高校へのヒアリング実施（新城東高校）
- 7月18日 高校へのヒアリング実施（新城東高校作手校舎）
- 7月26日 第1回作手地区公共交通ワークショップ開催
- 8月28日 作手地区バス運転手ヒアリング
- 9月20日 豊田市下山地区デマンドオペレーター視察
- 10月・11月 常連客ヒアリング（実施予定）



■鳳来南部地区路線

- 6月27日 「地域の足をつくる会」との協議実施
- 7月17日 高校へのヒアリング実施（新城高校・新城東高校）
- 8月30日 鳳来地区バス運転手ヒアリング
- 9月13日 鳳来南部地区路線運営協力予定者・運行協力予定者との意見交換会
- 10月・11月 常連客ヒアリング（実施予定）

再編運行イメージ

■ デマンド型乗合交通を提案へ

● 研修や視察の踏まえ検討

● 山吉田地区に適する
新しい公共交通は、
「デマンド型乗合交通」が良い
との結論に。



受付センターは山吉田ふれあいセンターを想定

作手地区路線実施結果まとめ

■高校ヒアリング（作手地区に係る部分を抜粋）

○新城東高校

- ・作手地区の生徒は10人が毎日、バスを利用して通学している
- ・朝補習は7時40分、始業は8時40分、終業は15時35分、部活（居残り学習も含む）は19時、半日日程（テスト期間中）は12時、半日日程（保護者会及び始業式・終業式）は12時40分といった時間割になっており、それぞれの時間に合わせたバスで登下校している

○新城東高校作手校舎

- ・作手線を利用している生徒は全校85人のうち51人
- ・寮生も月曜日と金曜日は利用するため、85人のうち64名は利用していることになる
- ・作手地区の子でも守義線を利用している生徒が4名いる
- ・八名や東郷の子は自転車や送迎でバス停まで行き、そこからバスを利用している
- ・鳳来の子は電車や原付でバス停まで行き、そこからバスを利用している
- ・作手地区でもバスが通っていない地区の子は原付で通学することもある
- ・始業は8時20分、終業は15時10分、部活は17時と18時（季節に合わせて変更）、テスト期間中は12時30分という時間割になっており、それぞれの時間に合わせたバスで登下校している

■運転手ヒアリングまとめ

○守義線の利用状況

- ・30人ほどの人が定期的に利用しており、乗車するバス停までの把握ができています
- ・目的地としてはほとんどが支所周辺である
- ・作手線に乗り継いで、定期的に新城市街地まで行くという人は3人ほどである
- ・支所周辺まで来ないで、途中で下車するという人はほとんどいない

- ・一般の人の利用パターンとしては、朝の便で来て、昼に帰るというものであり、夕方から夜の便を利用するという一般の人はほとんどいない
- ・まるっきり1日乗らないという日は土曜日を除けない

○つくであしがる線の利用状況

- ・20人ほどの人が定期的に利用しており、乗車するバス停までの把握ができています
- ・曜日ごとに違うルートを運行しているので、それぞれの地区に定期的に利用する人がいるが、土曜日の利用はほとんどない
- ・目的地としては支所周辺がほとんどであるが、たまに郵便局への用事やゲートボールをするために途中で降りる人がいる
- ・作手線に乗り継いで、新城市街地まで行くという人はほとんどいない
- ・手作り村やB & Gといった施設への利用はほとんどない
- ・夕方に運行する4便の利用はほとんどない
- ・基本は1便で来て、2便で帰る、診療所が混んでいれば、3便で帰るというパターン
- ・バス停から家が離れすぎているために、買ったものを持っていくことができず、支所周辺まで来るが、買い物ができないという人がいる
- ・フリー乗降ではあるが、バス停で乗る人とそれ以外の割合は半々くらい

○デマンド運行に関する意見

- ・バス停から家までが遠く、買い物ができないといった方もいるので、デマンド運行にする意味はあると思う
- ・高齢者の方は耳が遠く、バスの車内で会話をしているにもかかわらず、話が通らないということがあるので、電話予約だけだと支障が出るのではないかと感じる
- ・現在の利用者の方の家の近くまで入っていくには、現状のバスタイプの車両では無理なため、最低でもハイエースタイプくらいの車両にすることが必要

平成30年度第1回 作手地区公共交通ワークショップ

テーマ：「実際の運行に向けた準備をしましょう」

開催日：平成30年7月26日（木） 19：30～21：00

開催場所：作手総合支所 会議室

参加人数：12人（地域協議会委員、民生委員協議会委員、バス運転手、バス利用者、老人クラブ会員、作手診療所職員、社会福祉協議会職員）

意見まとめ

A班

- ・作手線は現状の時間のままが良い。
- ・高里7：30のバスに乗るために親が送り迎えをしているので、その時間にも対応が必要。
- ・守義線については、1便は中学生の通学にちょうどよいので現状のまま残す。帰りについては時期によって時間が変わるのでデマンドで対応する。
- ・あしがる線については曜日によって利用者に不公平が生まれており（水曜日はAコープがやっていない等）、木和田の人がバス停から家が遠いため、買い物ができないという問題が発生しているため、オールデマンドが良い。
- ・小中学校のスクールバスをうまく利用することも必要になってくるのではないか。

B班

- ・デマンド運行となっても、現状の利用者にも、そのまま乗ってもらい、乗合率を高めるために利用実態の調査・アンケートを実施する。そうすることにより、運行のシュミレーションができる。
- ・今までの定期定路線運行は市民がバスに合わせる形であったが、デマンド運行になれば、バスが市民に合わせることになる。予約があっても、乗車ができないことがあるため、ルール作りが必要。
- ・予約の受付方法についても、詳細なルール作りが必要。
- ・ドア・ツー・ドアという運行についても、玄関前まで行くのか、物理的にバスが入っていけるところまでなのかを決める必要がある。

- ・最終の時間を忘年会シーズンは22時までにすることで利用が増えるのではないか。
- ・イベントがある日は日曜日でも運行すれば利用者増とイベントへの参加者増につながるのではないか。

C班

- ・バスを利用する人は診療所を目的にする人が多い。新城や作手地区内の他施設に行く人とのすみわけ、ルール作りが必要。
- ・診療所の診療時間は火曜日と水曜日が午前中のみとなっているため、あしがら線の火曜日便、水曜日便の沿線地区の住民は利用がしにくくなっている。そうした現状があるため、デマンド運行は便利。
- ・帰りの便の予約をどうするか（診療時間に幅があるため）はクリアすべき課題である。
- ・オペレーターへの受付の際に診療所の情報等も合わせて紹介してもらえると、利用者の方の利便性向上につながる。

鳳来南部地区路線実施結果まとめ

■運転手ヒアリングまとめ（長篠山吉田線抜粋）

- ・現在の定期的な利用として、高校生、鳳来南部地区にある福祉施設に通勤している人、鳳来中部地区にある福祉施設に通う人という3人がいる
- ・高齢の方で定期的に利用するという人は思いつかない
- ・福祉施設への見舞いに来る方がたまに乗ることがある
- ・今まで乗っていた人が乗らなくなるという人数が新しく乗るという人数を超えているため、乗車人数は減少している
- ・浜松市まで乗り入れているが、浜松市への利用、浜松市からの利用ともにほとんどない